小学校外国語科

指導・支援アイデア集

指導・支援アイデア集　目次

聞くこと　1	音声教材，教員が話す英語を聞き取れていない
聞くこと　2	必要な情報を絞り込めない
読むこと　1	活字体で書かれた文字を正確に識別できない
読むこと　2	語句や表現が読めない
話すこと　1	語句が出てこない
話すこと　2	表現が出てこない（1）
話すこと　2	表現が出てこない（2）
話すこと　3	一人で話すことができない
話すこと　4	聞き手に伝わるように話していない
話すこと　5	話す内容が思い浮かばない
話すこと　6	友達が話す英語を聞いて反応ができない
話すこと　7	定型のやり取りや発表から会話が広がらない
書くこと　1	文字と文字，語と語の間隔を適切に取って書けない
書くこと　2	時間内に書き終わらない
書くこと　3	正確に書き写せない

聞くこと　1　音声教材，教員が話す英語を聞き取れていない

全 … 学級全体に対する指導や支援　　個 … 個人に対する指導や支援

話す速さや聞かせる量などが児童に合っていない場合

①話す速さを変える。 全

音声教材ではなく，教員やＡＬＴがスクリプトをゆっくりはっきり読んだり，聞き取らせたい語句や表現を強調して読んだりして，聞かせ方を工夫する。

②聞かせる量を調整する。 全

聞かせる英文が長い場合は，１回目は全体をまとめて聞かせ，２回目は区切って聞かせるなど聞かせる量を調整する。児童の様子を観察し，音声を途中で止めたり，“One more time?”などと問いかけて数回聞かせたりすることも考えられる。

③スクリプトを変える。 全

音声教材で使用される語句などが児童になじみのないものである場合，児童に合わせて変更し，教員やＡＬＴがスクリプトを読んで聞かせる。また，その単元で扱う表現に絞って英語を聞かせたい場合に，スクリプトを修正することも考えられる。

語句や表現が定着していない場合

①どのような語句や表現が聞こえてくるのかイメージを持たせる。 全・個

音声教材，教員の話を聞かせる際に，提示したイラストや写真からどのような語句や表現が聞こえてくるか児童に想像させる。教員やＡＬＴは，児童が想像した語句や表現を英語でどのように言うか示す。それにより，児童はイメージを持って音声教材，教員が話す英語を聞くことができる。

②Small Talk で表現を聞かせる。 全・個

前時に音声教材で扱った表現を使ってSmall Talkを行い，その表現を使う場面に慣れ親しませる。教員とＡＬＴがやり取りを行い，どのような話題について話しているか理解させてから，教員と児童や，ＡＬＴと児童がやり取りを行い，意味のあるやり取りの中で表現の定着を図る。

【例】誕生日や欲しいものについて尋ねたり，答えたりする。

ALT：I like tennis. I want a new racket for my birthday.（ピクチャーカードを見せながら）
　　My birthday is September 10th. When is your birthday?
教員：March 28th.（カレンダーを示しながら）
ALT：What do you want for your birthday?
教員：I want a new bag.（ピクチャーカードを見せながら）
ALT：Oh, nice. When is your birthday?　（児童に尋ねる）
児童：８月３日。
ALT：August 3rd. Your birthday is August 3rd.
　　What do you want for your birthday?
児童：Book. 漫画。
ALT：Comic book. You want a comic book for your birthday.

③聞かせた語句や表現に関する絵や写真を示して確認する。 全

聞き取ってほしい語句や表現などに関する絵や写真を示し，一緒に発音したり，もう一度英語を聞かせたりすることで，音とイメージを一致させる。

聞くこと　2　必要な情報を絞り込めない

全 … 学級全体に対する指導や支援　　個 … 個人に対する指導や支援

目的意識を持って聞いていない場合

①英語を聞く前に，登場人物や話の内容について予想させる。全

音声教材の英語を聞かせる際に，写真やイラストを見せて，登場人物はどのような人か，どのような場面で話しているかなどを予想させ，聞かせる内容が児童にとって身近なものになるようにする。「予想が合っているか確かめるために聞いてみよう」と言葉掛けをし，聞くことに目的意識を持たせる。また，聞かせる内容を児童にとって身近なものにするために，自分と比較して考えさせる時間を設けることなども考えられる。

②目的を持って聞く場面を設定する。全

絵本や歌，チャンツを聞かせる際に，ただ聞かせるのではなく，目的を持って聞かせることが重要である。例えば，「どんな動物が出てくるか，よく聞いてみよう」などと課題を設定してから聞かせることが考えられる。

③ポイントを絞って聞かせる。全

聞き取ってほしい語句や表現などのポイントを示してから，音声教材，教員の話す英語を聞かせ，聞き取ったことから話の概要をつかめるようにする。

話題や内容が理解できていない場合

①英語を聞く前に，場面や話題を理解させる。全

単元の導入時など，音声教材の英語を聞かせる際に，話題が何かつかめない児童がいることも考えられる。音声教材の英語を聞かせる前に，教員やＡＬＴが児童と英語でやり取りを行い，場面や話題を理解させるようにする。その際，話の内容に関する写真やイラストを示すことで，内容理解の助けになるようにする。

②何について話していたかを確認する。全

英語を聞かせた後に，内容について，児童とやり取りをしながら確認する。例えば，夏休みの思い出に関する内容であれば，“Where did he go?”や“What did he eat?”などと児童に尋ね，何について話していたか学級で共有する。その後，再度英語を聞かせることで，児童は何を聞き取れば良いか分かった上で聞くことができる。

③聞き取れたことをペアやグループで共有する。全・個

英語を聞かせた後に，何が聞き取れたか，どんな話をしていたかなどペアやグループで確認させる。友達と共有することで，お互いに補いながら話の内容を把握することができる。話の内容がおおむね分かった状態で再度英語を聞かせ，一人でも必要な情報を絞り込めるようにする。

読むこと　1　活字体で書かれた文字を正確に識別できない

全 … 学級全体に対する指導や支援　　個 … 個人に対する指導や支援

文字と読み方が一致していない場合

①歌やチャンツの際に文字を見せる。 全

歌やチャンツなどの音声を繰り返し聞かせる際に文字を提示し，アルファベットの読み方に慣れ親しませる。音声と一緒に文字が提示される動画などを活用する。

②文字とその文字で始まる語句やイラストを示して，文字のイメージを持たせる。 全

アルファベットを指導する際に，文字とその文字で始まる語句やイラストを合わせて提示する。フォニックスも指導し，文字の形と読み方，音とその文字を使った語句のイメージを関連させ，連想できるようにする。

③文字を見て一人で読む場面を設ける。 全

学級で一斉に文字を読ませていると，一人一人が読めているか教員も児童自身も把握しにくい。フラッシュカードで文字を提示し，順番に１人ずつ読ませる活動を短時間の帯活動として取り入れるなどして，繰り返し慣れ親しませたり，読めるか確かめさせたりする。

似た形の文字を混同している場合

①同じ読み方の大文字と小文字でペアを作らせる。 全・個

複数のアルファベットの大文字と小文字を提示し，その中から同じ読み方の大文字と小文字を選んでペアを作る活動を行う。文字の形と読み方を関連させ，似た形の文字を区別できるようにする。

②特徴が似ているアルファベットを提示し，違いを見付けさせる。 全・個

文字の高さに着目して「１階建てグループ」「２階建てグループ」「地下室グループ」に分けたり，形に着目して「〇があるグループ」「点があるグループ」に分けたりして，特徴が似ているアルファベットをまとめて提示する。その中で違いを見付けさせることで，文字の特徴をつかませ，識別できるようにする。

読むこと　2　語句や表現が読めない

全 … 学級全体に対する指導や支援　　個 … 個人に対する指導や支援

語句や表現の意味が分からない場合

①やり取りや発表で扱う語句に文字でも触れておく。 全

友達が話した内容を理解できるように，学級の児童がやり取りや発表で扱う語句にはあらかじめ触れておく。一度にたくさんの語句を提示するのではなく，単元を通して帯活動で取り上げたり，ピクチャーカードにして文字と一緒に提示したりして，少しずつ慣れ親しませていく。ピクチャーカードを小さくしたカードを用意し，ゲーム的活動を通して慣れ親しませていくことも考えられる。

②読む前に音声で聞かせ，音声を手掛かりに推測して読ませる。 全

音声で十分に語句に慣れ親しませてから文字を提示し，声に出して読ませることで音声と文字を関連させていく。英語を読む際も，音声を聞いてから英語を声に出して読ませるようにする。友達が書いたものを読む活動では，話す活動を行ってからワークシートなどに話したことを書かせ，それを交換して読ませることで，聞いたことを手掛かりに推測して読めるようにする。読めない時は，再度ペアで話す活動をさせる。

③話す活動で分からない語句が出てきた時には，尋ねたり，ジェスチャーや知っている語句を使って教えたりすることに慣れさせておく。 全

読む前の話す活動の段階で，相手が話したことが分からなければ尋ねたり，それに答えさせたりさせる。“What’s ～？”“Slowly, please.”“One more, please.”などの表現をClassroom Englishとして扱ったり，ジェスチャーや知っている語句を使って相手に伝えたりすることに慣れさせておく。

語句や表現の音と文字が一致しない場合

①歌やチャンツで音声と一緒に文字に触れさせながら，十分に表現に慣れ親しませる。 全

歌やチャンツに合わせて声を出す際に，音声と一緒に文字が提示される動画を活用し，音声とともに文字を見せながら表現に慣れ親しませる。慣れてきたら文字のみを表示したカラオケバージョンで，歌やチャンツに合わせて声に出して読めるか確かめさせる。

②英語を指で追いながら音声を聞かせる。 全・個

音声で十分に表現に慣れ親しませてから文字を提示し，声に出して読ませることで音声と文字を関連させていく。英語を読む際には，紙面に書かれた英語を指で追いながら音声を聞かせ，音声と文字を関連させてから読ませるようにする。

話すこと　Ⅰ　語句が出てこない

全 … 学級全体に対する指導や支援　　個 … 個人に対する指導や支援

語句への慣れ親しみが足りない場合

①歌やチャンツ，ゲーム的活動を通して単元で扱う語句に慣れさせる。 全

歌やチャンツ，短時間のゲーム的活動を行うことで，語句を繰り返し聞かせたり言わせたりする。

【例】キーワード・ゲーム／ポインティング・ゲーム／ミッシング・ゲーム
コマンド・ゲーム（位置を表す語句）／バズ・ゲーム（数字や日付）等

②語句の定着を確かめる場面を設ける。 全・個

巻末絵カード等を用いて，個人で語句の意味を確認する時間を設ける。発音できた単語は机の左に，発音できなかった単語は机の右に置くようにし，児童が支援を必要としている語句を教員が把握できるようにする。

語句とイメージが結び付いていない場合

①語句は音だけでなく，イラストや写真などの視覚情報と共に示す。 全

イラストや写真などの視覚情報とともに，語句を聞かせたり，言ったりする場面を設ける。視覚情報と音を一緒に繰り返し提示することで，語句とイメージを結び付けるようにする。

②既習語句から，新出語句を児童に予想させる。 全

教員やＡＬＴが語句を一方的に提示するのではなく，児童に自分が知っている語句でどのように表現するかを考えさせる場面を設け，新出語句の意味を理解させる。

【例】教員　：How do you say 教室 in English?　Let’s think with your partner.
児童１：class かな？
児童２：study room かな？
教員　：Oh, close.　Nice try!　教室 is classroom in English.
児童　：なるほど，classroomっていうのか！

③語句を関連付けながら提示する。 全

関連するいくつかの語句を示す際には，児童に予想させたり，共通点を探させたりする場面を設け，語句の意味を関連付けながら理解させる。

【例】学校の場所の名前に慣れ親しむ。
教員　：教室 is classroom in English.　How about 音楽室？
How do you say 音楽室 in English？
児童１：音楽だから…music room?
教員　：That’s right!　音楽室 is music room in English.　How about 理科室？
児童２：理科は science だから，science room かな？
教員　：Well done!　理科室 is science room in English.

話すこと　2　表現が出てこない（1）

全 … 学級全体に対する指導や支援　　個 … 個人に対する指導や支援

表現への慣れ親しみが足りない場合

①歌やチャンツを活用し，表現に慣れ親しませる。全・個

歌やチャンツで繰り返し表現を聞かせる。聞き慣れてきたら，児童の実態に合わせてスピードを調整し，一緒に声を出させる。音声教材に合わせにくい場合は，教員の手拍子に合わせて歌やチャンツを歌わせてもよい。更に慣れてきたら，チャンツの歌詞を児童が話したいことに置き換えて歌わせる。このように，段階を踏みながら歌やチャンツを活用し，表現に慣れ親しませていく。

②ゲーム的活動を通して単元で扱う表現に慣れ親しませる。全

短時間のゲーム的活動を行い，表現を繰り返し聞かせたり，言わせたりする。

【例】キーフレーズ・ゲーム／デスティニー・ゲーム／ラッキー・カード・ゲーム
コマンド・ゲーム（位置を表す語句）／バズ・ゲーム（数字や日付）

③短いフレーズに区切って練習する。全

一文が長くなると，聞き取って繰り返したり，覚えたりすることが難しくなることが考えられる。一文を短いフレーズに区切って聞かせたり，言わせたりしながら徐々にフレーズを付け足し，スモールステップで表現に慣れ親しませていく。リズム良く話すことを意識させる。

【例】I’m good at ～ing. が定着しない場合

(1) cooking，playing ～，doing ～ 等を，ピクチャーカードを見せながら，聞かせたり，言わせたりする。

(2) good at cooking，good at playing ～， good at doing ～ 等を聞かせたり，言わせたりする。

(3) I’m good at cooking.　I’m good at playing～.　I’m good at doing～.等を，歌やチャンツで聞かせたり，ゲーム的活動やインタビュー活動で言わせたりする。

④文字を示しながら，英文を聞かせる。全・個

一文が長くなると，音声だけでは表現を覚えることが難しくなることが考えられる。文字を示しながら，文を単語やフレーズに区切って聞かせたり，言わせたりする。音声と文字を関連させながら慣れ親しませていくことで，文字をヒントに表現を思い出せるようにする。

⑤インタビュー活動を取り入れる。全

表現を使って話す機会を増やすために，「誕生日カレンダーを作るために，友達の誕生日を尋ねる」のように，児童が目的を持って行えるようなインタビュー活動を取り入れる。「教員やＡＬＴにもインタビューする」等の条件を付けると，児童に表現が定着しているか確認する場にもなる。

話すこと　2　表現が出てこない（2）

全 … 学級全体に対する指導や支援　　個 … 個人に対する指導や支援

表現と意味や使う場面が結び付いていない場合

①話題や場面をつかませてからやり取りを聞かせる。全

教員とＡＬＴのやり取りを見せて新出の表現を導入する際に，既習の表現を使ったやり取りから始めたり，ピクチャーカードやジェスチャーなどを活用したりして話題は何か，どのような場面かが伝わるようにする。その後にどのような会話をしていたのかを確認し，英語ではどう言うのかを示して，表現と使う場面を結び付ける。

【例】“When is your birthday? ”の導入

ALT：Hello.
教員：You look happy. What is this?
ALT：This is the birthday card. It’s from my friend.
教員：Oh, it’s nice.（児童に向かって）ALT の先生が持っているのは何だった？
児童：バースデーカード。
教員：When is your birthday?
ALT：My birthday is August 3rd.
教員：先生は何を質問したのかな？
児童：誕生日を聞いた。
教員：そうだね。When is your birthday?と言えば誕生日を質問できるね。

②話す必然性のある場面を設定し，やり取りする中で表現を使わせる。全

表現を機械的に復唱させる練習では，表現を使おうとする児童の意欲を減退させる恐れがある。身近で簡単なことについて，自分のことを話す場面を設定し，伝えるために表現を使う中で練習をさせるようにする。

【例】“I ate ～.”の表現の定着のために，「夏休みに食べた物を尋ねて，おいしそうな物を食べた友達を見付けよう」という課題を設定する

教員　：Walk around the classroom. Talk to your friends. おいしそうな物を食べた友達を見付けましょう。

ペアを作って

児童１：Hello. What did you eat?
児童２：I ate ice cream. What did you eat?
児童１：I ate watermelon. Thank you.

新たなペアを作って

児童１：Hello. What did you eat?
児童３：I ate pizza. It’s delicious. What did you eat?
児童１：I ate watermelon. Thank you.
⋮

活動後に

教員　：おいしそうな物を食べた友達はいましたか。
児童１：児童３さんです。ピザを食べておいしかったそうです。

話すこと　3　一人で話すことができない

全 … 学級全体に対する指導や支援　　個 … 個人に対する指導や支援

話すことに自信が持てない場合

①友達と一緒に発話する場面を設ける。 全

新出の語句や表現を導入する際，口慣らしや慣れ親しむ段階では，学級全員で声に出したり，グループの友達と一緒に声に出したりする場面を設け，発話への抵抗感を軽減しながら発話を繰り返し，自信を持たせる。ゲームにおいても，すぐに児童同士で対話させずに，教員やＡＬＴ，代表の児童など，一人に対して学級全員で尋ねる場面を設けるなど，段階的に活動を展開する。

②ペアやグループの組み方を工夫する。 全・個

友達と話したり，聞いたりする言語活動に安心感を持って取り組ませるため，「まずは隣の人と話してみよう」というように最初に対話する相手を指定したり，話しやすい友達とペアやグループが組めるように言葉掛けをしたりすることなどが考えられる。友達と話したり，聞いたりすることに慣れてきたら，「グループの人と話す」「〇人の人と話す」「男子〇人，女子〇人と話す」というように条件を付け，いろいろな友達と話す場を設ける。

③スモールステップで活動を組み立てる。 全・個

最初から児童同士で対話させることは避け，教員とＡＬＴの対話を聞かせた後，教員と児童，ＡＬＴと児童が対話する，次に児童同士がペアで対話する，グループ内で対話する，全体の前で話すというように段階を踏んで活動を組み立てる。聞いたり，少人数で対話したりする活動を十分に行い，少しずつ人前で話すことに慣れさせるようにする。

④教員とやり取りする場を設け，称賛する。 個

教員と児童が対話する中で，できたことや頑張ったことを認め，称賛することで達成感や自己肯定感を持てるようにする。児童が誤りのある英語を話しても，訂正して言い直させるのではなく，自然な対話を続けながら正しい英語で応答し，正しい言い方を意識させるようにする。

【例】教員：How was your summer vacation?
児童：It was fun.
教員：Oh, nice! 楽しかったんだね。良かったね！Where did you go?
児童：I go to the mountain.
教員：Oh, mountain. You went to the mountain. 山に行ってきたんだね。

⑤「間違えても大丈夫」という雰囲気をつくっておく。 全

児童が安心して話すためには，学級の仲間づくりが基盤となるが，教員の姿勢も大切である。教員自身が児童の学習モデルとなることを意識し，「外国語の学習では，間違えてもいいから英語を使おうとすることが大切だ」という雰囲気をつくって，積極的に英語を使って話す姿を見せるようにする。

話すこと　4　聞き手に伝わるように話していない

全 … 学級全体に対する指導や支援　　個 … 個人に対する指導や支援

声の大きさや話す速さが適切でない場合

①聞き手に伝わるように話している児童を，グッドモデルとして示す。 全

言語活動中に聞き手を意識して話していた児童やペアを探しておき，一旦活動を止めて，その児童に全体の前で再現させる。それを基に，聞き手に自分のことを伝える場合にどのような点に留意すれば良いかを考えさせ，具体的なポイントを児童と共通理解してから活動を再開する。

②教員とＡＬＴが話し方のグッドモデルやバッドモデルを示す。 全

言語活動に入る前に，教員とＡＬＴがやり取りする様子を示す。聞き手に自分のことを伝える場合にどのような点に留意すれば良いかを，グッドモデルとバッドモデルの違いから具体的に考えさせ，ポイントを児童と共有する。

③ペアでやり取りをした後に，相互評価をする場面を設ける。 全

言語活動で，自分が何を話すかに気を取られ，「どのように話すか」「聞き手に自分の話す内容が伝わったのか」まで意識できていないことが考えられる。ペアでやり取りをした際に，活動後に相互評価をする場面を設け，聞き手側に立って話し方を振り返ることができるようにする。活動の前に話し方のポイントを共有しておくと，児童同士で具体的なアドバイスをすることができる。

④ペアを変えてやり取りする機会を増やす。 全

様々な人とやり取りをすることで，どのように話すとより伝わるのかを児童が体験的に気付いたり，上手な人の話し方を知ったりすることができる。

⑤動画を撮影し，自分が話す姿を見る場面を設ける。 全・個

自分が話している様子を確認できるように，児童同士で発表したり，やり取りしたりする様子をタブレットで撮影し合う場面を設ける。児童は動画を見ることで，声の大きさや速さ，目線，ジェスチャーなどについて自分がどうだったかを客観的に考えることができる。

目的意識が低い場合

①目的を明確にした言語活動を設定する。 全

コミュニケーションを行う目的や場面，状況などを明確にすることが言語活動を設定する上で重要である。例えば，インタビュー活動をする際に，「友達に誕生日を尋ねる」と設定するのではなく，「学級のみんなの誕生日カレンダーを作るために，友達に誕生日を尋ねる」のように目的を明確にして設定することで，児童が意欲を持って言語活動を行うことができる。

話すこと　5　話す内容が思い浮かばない

全 … 学級全体に対する指導や支援　　個 … 個人に対する指導や支援

話す内容のイメージが持てない場合

①様々な例を聞かせ，「自分だったら何を言うか」を考えさせる。 全

どのようなことを話せば良いかイメージが持てないために，自分のことを話せないことが考えられる。Small Talkなどを活用して教員やＡＬＴ，他の児童が話す姿を見せ，同じ話題でも様々な話ができることに気付かせる。様々な例を聞くことが，「自分だったら何を言うか」を選んだり，考えたりする際の材料の１つになる。

②友達と繰り返し対話する活動を設定し，イメージを広げる。 全

語句や表現に慣れ親しむ段階で，歌やチャンツだけでなく，「夏休みに行った場所が同じ友達を見付けよう」などの課題を設定し，児童同士が対話する活動を取り入れる。児童は，たくさんの友達と“I went ～.”を使って対話をする中で，表現に慣れ親しむとともに，様々な場所のことを話せることに気付くことができる。また，児童は簡単な課題に取り組むことを通して，話題に対するイメージを広げ，単元の終末で何を話すかを考える際のヒントにすることができる。

話す内容を整理できない場合

①話したいことをワークシート等で整理する場面を設ける。 全・個

単元の学習を通して慣れ親しんだ語句や表現を使って，単元の終末に発表ややり取りを行う際，話す内容が整理できないために自分のことを話せないことが考えられる。イメージマップやクラゲチャート，Ｘチャートなどを活用したワークシートを用意し，自分が伝えたい内容を整理する場面を設ける。内容を整理することで，自分が伝えたいことを話すには慣れ親しんだ語句や表現のどれが使えるかを考えることができる。

②話す際に使うイラストや写真，実物などの具体物を用意させる。 全・個

実物やイラスト，写真などの具体物を見せながらやり取りや発表をさせると，聞く側が内容を推測し，発表内容を理解する手掛かりとなる。そのためのイラストを描いたり，写真や実物などを用意したりすることで，話す側の児童は伝えたいことは何か，それを見せながらどのようなことを話すかなど，話す内容を整理することができる。また，やり取りや発表の際に英語を忘れそうになっても，具体物が手元にあることで話す内容を想起できるので，英語を思い出す手掛かりになる。

話すこと　6　友達が話す英語を聞いて反応ができない

全 … 学級全体に対する指導や支援　　個 … 個人に対する指導や支援

話を聞き逃してしまう場合

①目的のある言語活動を設定し，友達の話を聞く意欲を高める。 全

習得した表現を活用するコミュニケーション活動を行う際に，英語を使って達成する目的を明確に示し，児童が情報を伝え合うことに意欲的に取り組めるようにする。例えば，夏休みの思い出を伝え合う際に，「来年の夏休みに一緒に過ごしてくれる仲間を増やそう」という目的を設定することは，話し手の伝えたい，分かってもらいたいという気持ちや，聞き手の知りたい，聞きたいという気持ちを引き出すことにつながる。

②聞き取れなかったら，聞き返すことに習慣にする。 全・個

やり取りや発表の際に，相手が話したことが聞き取れなければ，もう一度尋ねることができるようにするために，“Slowly, please.” “One more, please.”などの表現をClassroom Englishとして扱っておく。話し手に対しても，聞き手の反応を見て理解できているか確かめ，声の大きさや話す速さを調整したり，ジェスチャーを加えたり，“OK? ”と問い掛けたりして，相手に伝わるように工夫して話すことに慣れさせておく。

③やり取りに慣れさせる。 個

教員やＡＬＴと友達がやり取りを行う様子を見せ，やり取りの場面に慣れさせてから児童に対話させる。

【例】児童２が児童１からの質問に答えられない時の支援

教員　：児童１さん，Please ask me.
児童１：What do you want for your birthday?
教員　：I want a red bag for my birthday. 児童１さん, Please ask 児童２さん.
児童１：What do you want for your birthday?
児童２：I want a game.

語句や表現が定着していない場合

①やり取りや発表で扱う語句や表現に慣れさせておく。 全

友達が話した内容を理解できるように，学級の児童がやり取りや発表で扱う語句にはあらかじめ触れておく。一度にたくさんの語句を提示するのではなく，単元を通して帯活動で取り上げ，ゲーム的活動の中で繰り返し触れることで少しずつ慣れ親しませていく。表現についても，歌やチャンツに合わせて繰り返し声に出すことで，音声として慣れ親しませ，聞く活動，話す活動の中で活用できるようにしておく。

②スモールステップで児童を対話に加えていく。 全・個

最初から児童同士で対話をさせるのではなく，聞いたり，練習したりする段階を踏んで，やり取りをする場面や表現に慣れさせながら，徐々に児童を対話に加えていく。教員とＡＬＴの対話を聞かせる，教員と児童やＡＬＴと児童が対話をする，友達同士が対話をするのを聞かせる，教員やＡＬＴと一緒に友達と対話をするなどの活動が考えられる。

話すこと　7　定型のやり取りや発表から会話が広がらない

全 … 学級全体に対する指導や支援　　個 … 個人に対する指導や支援

会話の広げ方が分からない場合

①Small Talk で既習表現を活用している様子を見せる。全

言語活動を行う前に，教員やＡＬＴが既習表現を活用して会話を続けている様子を見せる。単元の学習を通して継続的に見せることで，児童はやり取りのイメージを持ちやすくなる。教員やＡＬＴ以外に，前年度の児童が話している様子の動画を単元の学習の始めに見せることも考えられる。

②Small Talk で児童が既習表現を活用できる場面を設ける。全

Small Talk は，教員やＡＬＴがモデルを示し，既習表現を確認した後，教員と児童，児童同士でやり取りをする場面を設けるという流れで行う。児童同士の場合はパートナーを替えて同じ活動を行うことで，やり取りに慣れさせることが大切である。

③言語活動の途中に，表現の確認をする場面を設ける。全･個

児童同士の対話を行った後，児童が伝えたかったけれど英語で伝えられなかったことを確認する。児童が既習の語句や表現で伝えられる内容について挙げた場合は教員やＡＬＴがすぐに答えるのではなく，学級全体に問い掛ける。未習の語句や表現については，日常的なものや身近なものは教えるが，難しいものは日本語を用いることも考えられる。

④日本語ではどのように会話を続けるか考えさせる。全･個

話をする目的や場面，状況などを示し，日本語ではどのように会話を続けるか考えさせる。「どのように会話を続けるか」「どのような質問をするか」などを児童に問い掛け，学級で共有する。その後、既習表現で使えるものは何かを考えさせる。

⑤対話を続けるための基本的な表現の定着を図る。全･個

対話を続けるための基本的な表現を指導する。対話を円滑に行うためには，相手の話した言葉を繰り返して話し手が伝えたい内容を確かめたり，相手の話したことに何らかの反応を示したりすることが大切である。

【例】①相手の話した内容の中心となる語や文を繰り返す。
相手：I went to Tokyo.　自分：(You went to)Tokyo.
②相手の話した内容に対して自分の感想を簡単に述べ，内容を理解していることを伝える。
That’s good. / That’s nice. / Really? / That sounds good.など
③相手の話した内容が聞き取れなかった場合に再度尋ねる。
Pardon? / One more, please.など
④相手の話した内容についてより詳しく知るため，内容に関わる質問をする。
相手：I like fruits.　自分：What fruits do you like?など

⑥児童に自身の対話の振り返りをさせる。全･個

対話後「相手の言ったことを繰り返して言えたか」「一言感想を言うことができたか」などを確認し，対話を続けるための基本的な表現の使用に意識を向けさせる。

書くこと　1　文字と文字，語と語の間隔を適切に取って書けない

全 … 学級全体に対する指導や支援　　個 … 個人に対する指導や支援

語のかたまりが分からない場合

①語に分けて提示し，書き写させる。 全

書く活動で表現を提示する際に，1語ずつカードやミニ黒板などに分けて書く。スペースを空けてカードやミニ黒板を示すことで，語を1つのまとまりとして意識したり，語と語の間にスペースを取って書いたりできるようにする。

②書き写す際に，語と語の間に指を置かせる。 全・個

語を1つのまとまりとして意識できても，読みやすい間隔が分からないと，語と語の間がくっついたり，離れすぎたりする。「語と語の間は指1つ分空ける」などのルールを決めると間隔を取りやすくなる。

③書き写す語だけが見えるようにする。 個

書き写す語だけに意識を向けさせるため，残りの語は紙や定規で覆い隠すようにする。1つの語を書き写したら間隔を取り，紙や定規を動かして次の語を見て書き写すというように，書き写す際の手順を示して語と語の間隔を取って書けるようにする。

語のかたまりではなく1文字ずつ書き写している場合

①ピクチャーカードやピクチャーディクショナリーなどを手本として活用する。 全・個

黒板に例文を示すだけでなく，児童が書き写す際に手元で見られる手本を用意する。教科書やピクチャーカード，ピクチャーディクショナリー，児童用英語辞典，タブレット端末などが，手本として活用できる。

②スペースを空ける場所が分かるように提示する。 全・個

語をかたまりとして意識させるために，黒板に例文を示す際に語と語の間にマグネットを置いたり，手元で見る手本に語と語の間の空白を点線で囲んだりする。スペースを空ける場所が分かるように目印を決めておくと良い。

③なぞり書きをさせる。 個

書き写すことに慣れるまではなぞり書きにする。教員がワークシートに書く場合は，児童がなぞりやすいように蛍光ペンなどで書くと良い。

書くこと　2　時間内に書き終わらない

全 … 学級全体に対する指導や支援　　個 … 個人に対する指導や支援

書き始めるまでに時間が掛かる場合

①自分のことを話す活動をしてから書かせる。全

書く活動の前に話す活動を行い，自分のことを繰り返し話す経験をさせておく。音声で語句や表現に十分に慣れ親しませてから書く活動を行う。

例）夏休みに行った場所を書く場合

・I went to ～.の表現を使って自分が行った場所をたくさんの友達に話す。
・I went to ～.の表現を，音声を聞きながら声に出して読む。
・「～」の部分に入る語句を，手本を見ながら書き写す。

②書き出しの部分をなぞり書きさせる。全

話す活動で自分が話したことを書く際に，書き出しの部分やどの児童にも共通する部分はなぞり書きができるようなワークシートを用意する。自分に関する部分は手本を見ながら書き写させる。

③自分に関する部分を書くための語句を示す。全・個

自分に関する部分を書くために，語句を選択できるように手本を示す。手本としては，絵と文字を示したピクチャーカードやピクチャーディクショナリーなどが考えられる。ピクチャーカードやピクチャーディクショナリーにない語句は，タブレットや児童用英語辞典などを使って調べさせる。

書くことに時間が掛かる場合

①手本を近くに置かせる。全・個

黒板に例文を示すだけでなく，児童が手元で見られる手本を用意する。児童が書きたい語句や表現を聞き取って４線に書いたものを手本として渡すことも考えられる。

②単元を通じて毎時間少しずつ書く活動を行う。全

単元を通して複数の文を書く場合，一度に全て書かせるのではなく，１時間に１文ずつ書くなど，作業を分けて取り組ませ，負担を減らす。その時間の話す活動で十分に慣れ親しんだ表現を書かせるようにする。

③書き写す量を調節する。全・個

４線を使って英語を書くことに慣れるまではなぞり書きをさせ，書き写す量を調節する。文を書く場合は，例文と共通する部分をなぞり書きできるワークシートを用意する。

書くこと　3　正確に書き写せない

全 … 学級全体に対する指導や支援　　個 … 個人に対する指導や支援

スペルミスをする場合

①文字の大きさを調節して見やすくする。全・個

黒板に例文を示すだけでなく，児童が手元で見られる手本を用意する。教科書やピクチャーディクショナリーなどでは文字が小さく読みにくいことがあるので，タブレット端末を活用して見やすい文字の大きさに調整することも考えられる。

②つづりを確認しながら書き写させる。個

“book”を“bok”，“salmon”を“samon”，“sea”を“se”と書くなどのスペルミスでは，つづりを意識せず音を頼りに書いていることが考えられる。書き写す際に，“b-o-o-k, book”とつづりと読みを一緒に示し，つづりを意識させるようにする。

③文字の特徴をつかませる。個

４線にうまく文字が書けない場合は，文字の線の書き始めの位置や終わりの位置がどこかを意識させる。４線で捉えるのが難しい場合は，基線と第２線のみ示すなど，線の数を減らしたワークシートを活用してもよい。「b と d」や，「p と q」を書き間違えるなどのスペルミスは，文字の特徴をつかめていないことが考えられる。「バットを立てたら右にボールで b」「q は数字の９を基線にさす」のように，文字の特徴を覚えやすい言葉にして示してもよい。

英語と日本語の表記方法の違いに気付いていない場合

①英語では単語を１つずつ区切って書くことを示す。全・個

日本語の表記方法に慣れているために語と語を続けて書いてしまうことが考えられる。英語では単語を１つずつ区切って書くので，語と語の間にスペースを取ることを指導する。その際，「１文字分空ける」など，適切なスペースの目安を示す。

②どのような時に大文字で書くかを示す。全・個

文の先頭，人名・地名，自分を表す“I”など，どのような時に大文字で書くかを，英語を書くときのルールとして示しておく。

③句読点ではなく「,」や「.」「？」を使うことを示す。全・個

文末に「.」を書き忘れることが考えられる。英語でも日本語と同様に文の終わりには記号を書くこと，句点ではなく「.」や「?」を使うことを，英語を書くときにルールとして示しておく。また，“Yes, I do. ”や“No, I don’t. ”などを例に，英語では読点の代わりに「,」を書くことも，形の違いとともに示しておく。